

# **AMCoR**

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 () 平成18年度:9-11.

祖父母面会に関する一考察

佐々木, 和代 ; 高桑, 郁子 ; 塩谷, 今日子 ; 久保, 治美

# 祖父母面会に関する一考察

周産母子センターNICU

○佐々木和代、高桑 郁子、塩谷今日子、久保 治美

## I はじめに

NICUとは、救命の場であると同時に母子関係の形成の場でもある。当NICUでは開設時より両親は24時間面会可能としている。近年、核家族化が進み、母親への育児に対する負担が多く、育児支援が必要な環境におかれている。森は、「NICUという特殊の環境の中で、いかに『家族としての関係性を育める場』を提供できるかが重要であり、大きな課題である<sup>1)</sup>」と述べている。平成17年6月から面会に対する両親の要望に答える形で祖父母の入室面会を開始した。当NICUの先行研究でも両親の面会に対するニーズを満たすことができたことがわかっている。しかし、祖父母面会が、母子関係形成や母親の育児支援にどのような影響を与えたかは、まだ確認できていない。そこで、祖父母の入室面会が、母親の支援に繋がっているのか、退院後の状況を調査したので結果をここに報告する。

## II 目的

祖父母の入室面会が、新生児の退院後に母親の支援に繋がっているのか、面会の有効性を明らかにする。

## III 研究方法

1. 研究期間：平成18年2月～平成18年6月
2. 対象：平成16年9月から平成18年2月までに当NICUに入院した新生児の母親114人。
3. 調査方法：質問紙は独自に作成し、郵送による質問紙調査を実施した。
4. 分析方法：アンケート質問紙調査の結果を単純集計し対象の属性と合わせ、祖父母の入室面会を経験した母親をA群、経験していない母親をB群と表し、A群とB群を比較・検討した。
5. 倫理的配慮：研究の意義、目的を文書にて説明し、同意を得ることとした。プライバシーの保護として、質問紙は無記名とし、研究に同意を得られた場合にのみ返信して頂いた。

## 6. NICUの面会規定

- 1) 両親は24時間入室面会を可能とする。
- 2) 祖父母の入室面会は13時～19時(院内の面会時間に準ずる)までとする。
- 3) 祖父母の入室面会は両親のどちらかが必ず同席する。
- 4) 1回に入室面会出来る人数は1家族3人までとする。
- 5) 窓越し面会は両親、祖父母問わず24時間可能とする。

## IV 結果

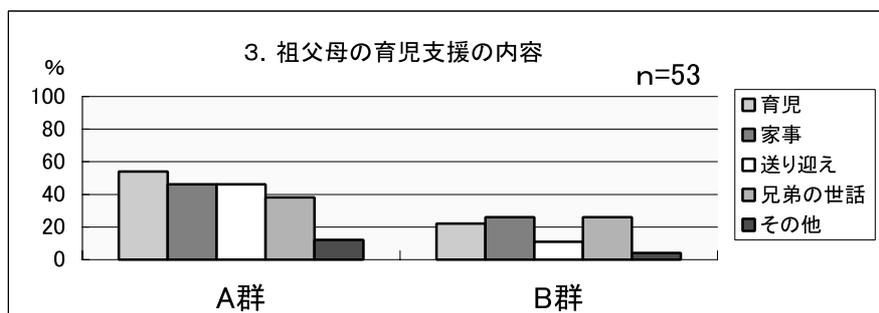
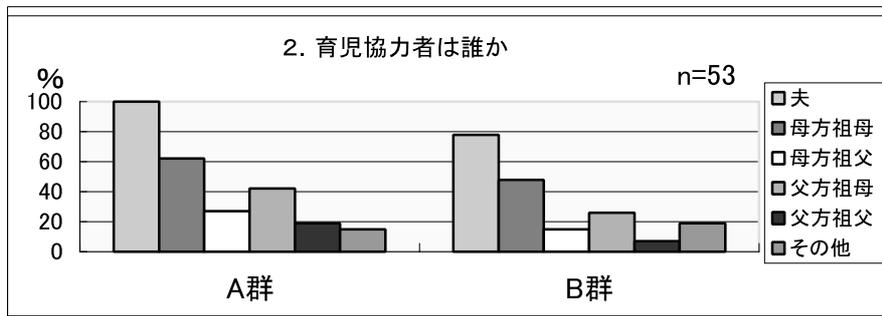
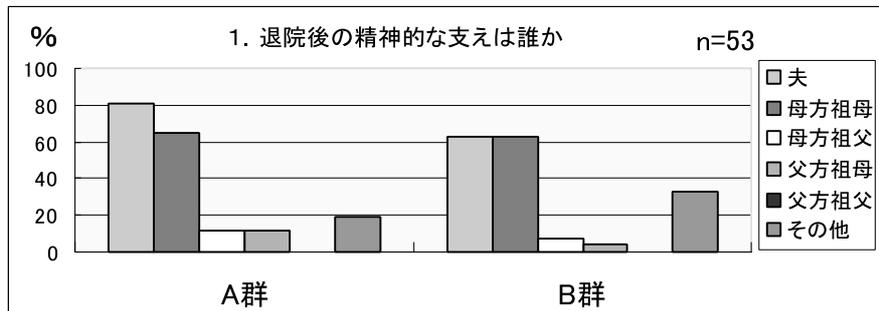
1. アンケート回収率：53人(46%)  
有効回答率：53人(100%)  
A群26人(43%) B群27人(57%)
2. 対象の属性
  - 1) 母親の平均年齢：A群 33.3歳 B群 32.7歳
  - 2) 出産経験：A群 初産14人 経産12人  
B群 初産15人 経産12人
  - 3) 家族構成：A群 核家族21人 同居5人  
B群 核家族23人 同居4人
  - 4) 児の出生体重：A群 1000g未満2人  
1000～1500g未満3人  
1500～2000g未満8人  
2000g以上13人  
B群 1000g未満3人  
1000～1500g未満5人  
1500～2000g未満8人  
2000g以上11人
3. 質問紙調査の結果
  - 1) 退院後、育児に心配があるかの問いに対し、「はい」と答えた人は、A群が13人B群が15人であった。
  - 2) 退院後の精神的な支えは誰ですか(複数回答)の問いにA群で「夫」と答えた人が21人(81%)で次に、「母方祖母」で17人(65%)であった。B群は「夫」と「母方祖母」が17人(63%)と同じ割合であった。A群、B群ともに差はなかった。

3) 育児に協力してくれる人はだれですか(複数回答)の問いには、「夫」と答えた人が、A群は26人(100%) B群で21人(78%)と最も多く、次いで「母方祖母」がA群16人(62%)、B群13人(48%)であった。

4) 祖父母はどんなことに協力してくれますか(複数回答)の問いに対し、A群は「育児」が最も多く14人(54%)、次に「家事」や「送り迎え」と答えた人がそれぞれ12人(46%)の順であるのに対し、B群は「兄弟の世話」が10人(26%)で、次に「家

事」が9人(25%)、「育児」が8人(22%)であった。

5) A群に対して、祖父母が入室面会したことで、祖父母の気持ちや態度に変化が見られたと感じたかを母親に対し質問して回答を得た。その結果、「孫への気持ちの変化」や「両親への支援」が入室面会前後で変わったと感じているということがわかった。



## V 考察

NICUに入院した新生児を持つ母親は、成熟児を持つ母親とは異なり、多くの不安を抱えている。そのため退院後、不安や心配を持つ母親をサポートする家族の存在も重要と言える。退院後、祖父母の窓越し面会だけではなく、入室面会を経験したA群の方が、心配が少なく、退院後の育児を行うことができている。これは祖父母に新生児と直接対面してもらうことで、母親と共に新生児の成長を確かめ共通理解をし、スムーズに新生児を受け入れることができたためと考える。A、B群とも退院後の精神的な支え、育児協力者では、「夫」や「母方祖母」が殆どの回答を占めている。母親にとって一番身近な存在で良き理解者であることがわかり、属性に関してもA、B群に差がなく一般的な傾向と言える。村田らは「子育ての価値は、生まれ育った家族から部分的に導き出されているため、祖父母は、親が子育てに用いる理念や価値観に影響を及ぼす<sup>2)</sup>」と母親にとっての祖父母の存在価値を述べている。A群の祖父母の協力内容をみると、オムツ交換や沐浴等の育児や送り迎え等、子供に直接接する支援が主なものになっているのに対し、B群ではそれらをサポートする協力内容が主なものになっている。

また、A群にのみ質問した内容では、入室面会した祖父母に「孫への気持ちの変化」が生じたことを母親が感じている。当NICUの先行研究でも、入室面会した祖父母の多くが「直接会えてよかった」など肯定的な意見を述べている。これは、入院中に祖父母が入室面会を経験したことで、愛着が深まり、家族の一員としての絆となったため、退院後の直接的な育児支援に繋がったと考える。祖父母面会が少しでも、退院後の母親を支え、支援となっていることが今回の調査でわかり、祖父母面会の有効性を確認できた。

しかし、今回の調査では対象人数が少なく、アンケート内容も不十分なこともあり、妥当性に乏しいものとなった。また、対象が母親のみとなり、両者の意見比較ができなかった。今後は、さらにより良い面会を提供できるように検討していきたい。

## VI 結論

1. 入室面会での祖父母と母親の話し合える機会が、家族の関係性を深めるものと示唆される。
2. 入室面会が祖父母の気持ちに変化を与え、母親の直接的な育児支援となる。

## VII おわりに

両親の面会へのニーズが高まる中、祖父母面会を導入し1年が経過しようとしている。今回の研究では、祖父母面会の十分な評価には至らなかったが、面会の拡大が母子関係形成に役立つことは確かである。今後は、面会を含めた、母子関係を育める場としての環境作りを提供していきたい。

## 引用文献

- 1) 森 静子他：病院ボランティアとファミリーケア，NICUで取り組むファミリーケア，77～80，2002.
- 2) 村田恵子他：家族看護学，医学書院，140～164，2001.

## 参考文献

1. 和田万里他：どうしていますか？家族の面会（1）．ネオネイタルケア，12，（5），1999.
2. 鈴木和子他：家族看護学，日本看護協会，1995.